校内練習船

# 「かざはや」

の組み立て方

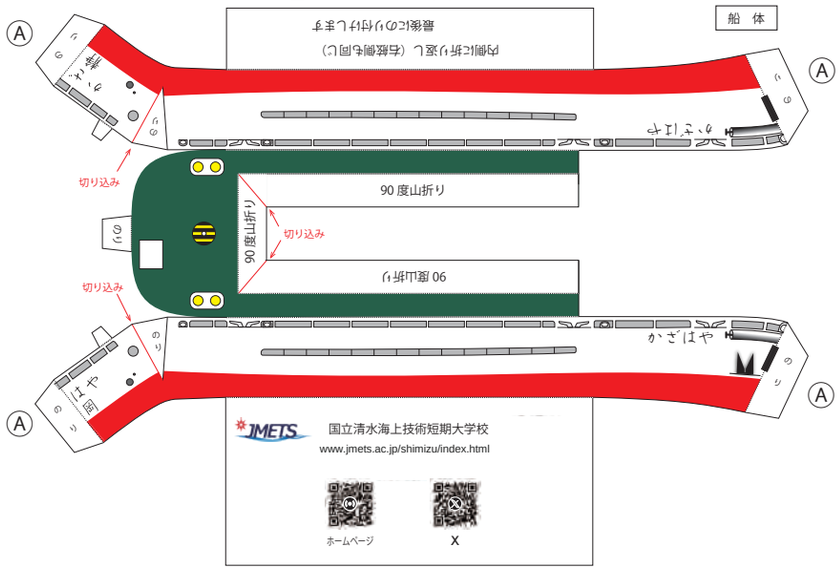
国立清水海上技術短期大学校

○ 部品ファイルは、カラープリンターで A4 サイズの用紙に印刷してください。
○ はさみ・カッター・のり（木工用ボンド推奨）。刃の取り扱いにはご注意ください。
・カッティングシートがあれば、細かい部分の切り取りに便利です。

組み立て方

1．船体を組み立てます。

○ 船体を輪郭に沿って切り取ります。
下図の赤線の部分には、切り込みを入れておきます。

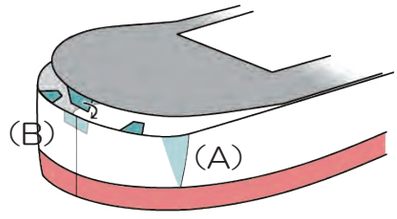



○ 甲板（デッキ）部分が水平になるように、舷側外板を手すりの上縁に沿って９０度山折りします。
船底の「内側に折り返し」部分も内側に折って、舷側の形をまっすぐに整えます。（右の写真を参照）
甲板内側の「９０度内折り」部分も山折りします。
後でここに、実習室をはめ込んで取り付けます。

○ 船首と船尾の「のり代」部分Ⓐは、折り返して左右両舷を貼り合わせます。

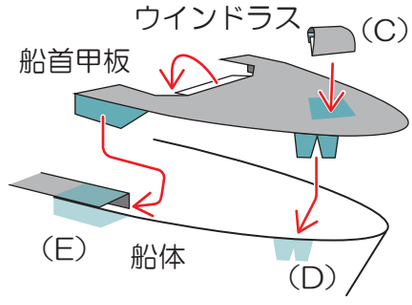
○ 切り込みを入れた船尾舷側ののり付け部分は、前後にずらして貼り合わせ、船尾の角に丸みを付けます。（下図Aを参照）

船尾デッキののり代を、船体内側に貼り付けます。（B）。左右の船尾外板を貼り合わせたのり代部分は、左右いずれかに倒し、その上から貼り付けてください。




○ 船首甲板とウインドラス（揚錨機）を切り取ります。

ウインドラスを、右図のようにかまぼこ型に折り曲げてのり付けし、船首甲板に貼り付けます。錨鎖がうまくつながる向きに取り付けてください（C）。




船首甲板を船体に貼り付けます。船首側の「のり代」は、船体のデッキの高さに沿う位置に貼り付けてください（D）。

船尾側の「のり代」は、山折りして船体の甲板と外板の内側に貼り付けます。

（E）

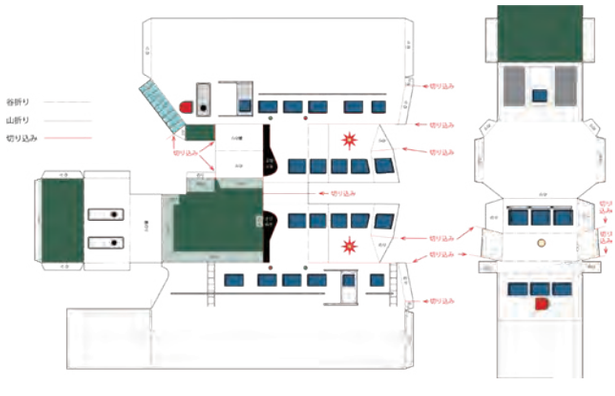
「90度内折り」部分は、サイドデッキと同様に山折りしておきます。

☆ これで船体は完成です。☆

1．実習室を組み立てます。

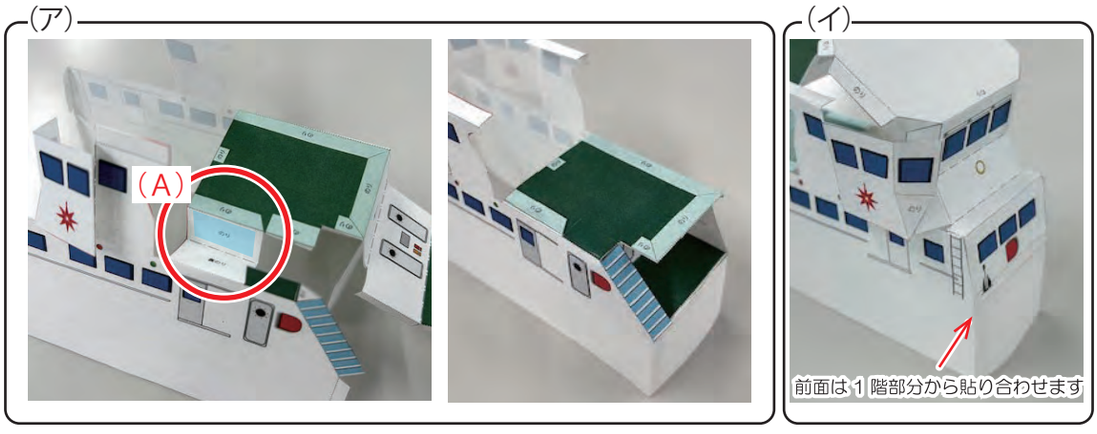
---

○ 実習室を輪郭に沿って切り取ります。赤線の部分には、切り込みを入れておきます。

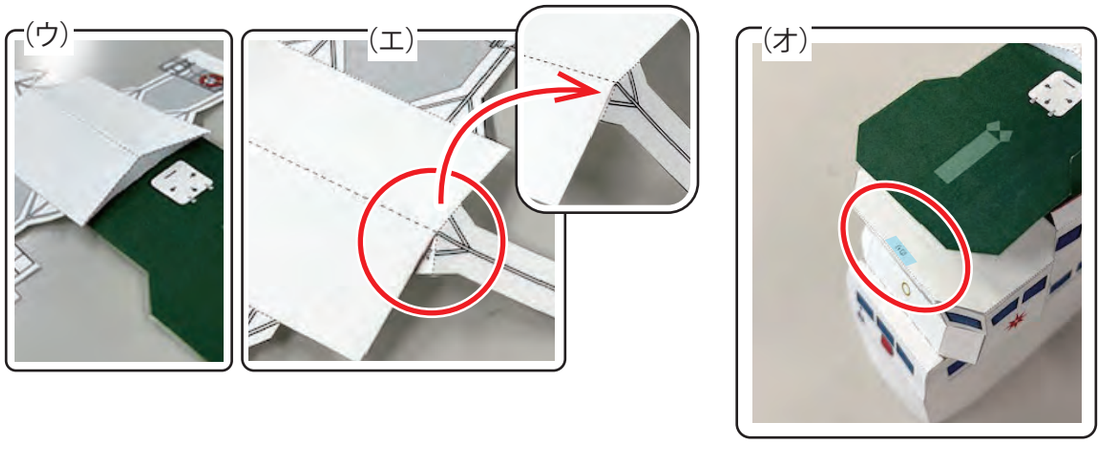


○ 折り線に合わせて、先のとがったものと定規などを使って折り筋をつけてから折り曲げます。

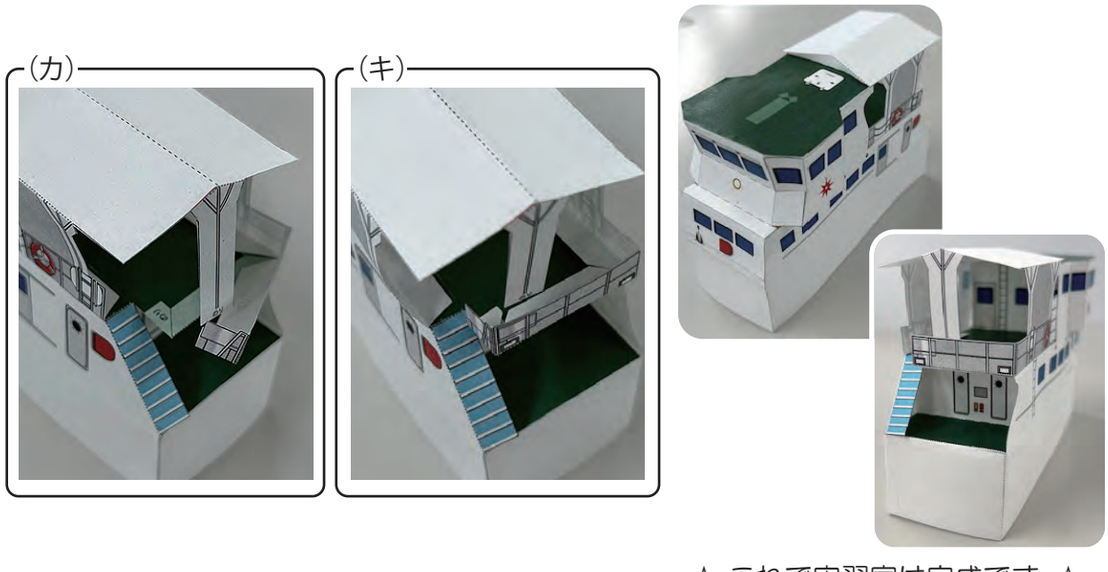
（ア）最初に左舷後部（A）から貼り合わせ、後部を完成させます。（のりは薄く塗る）
（イ）前面は、1階部分の下から貼り合わせていきます。




（ウ）コンパスデッキに続くテントは「谷折り」「山折り」を加えて立体的に折ります。
（エ）テントに最後部の支柱上部をのりで固定します。
（オ）実習室前部の「のり」部分に少量の「のり」を付けてコンパスデッキを仮止めします。

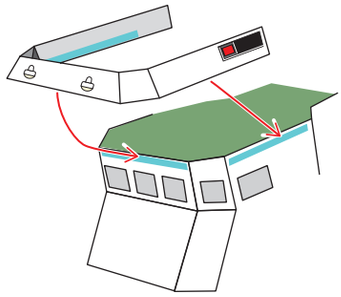



（カ）テントのハンドレールを折り曲げて、実習室のふちに貼り付けます。
（キ）最後部のテント支柱をハンドレール内側に貼り付けます。

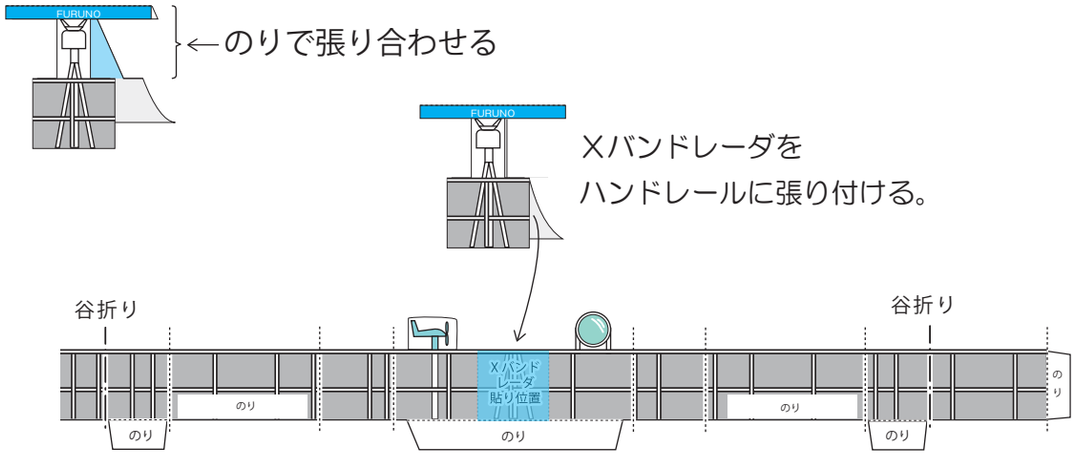



☆ これで実習室は完成です。☆

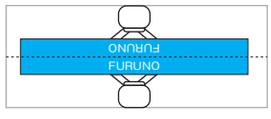
○ 実習室に船橋庇（ひさし）を取り付けます。「船橋庇」を山折りし、水色部分にのりを付けて、実習室に取り付けます。



○ Xバンドレーダをハンドレールに張り付ける
Xバンドレーダを切り取り、二つ折にして上部（レーダ部分）をのりで張りあわせる。

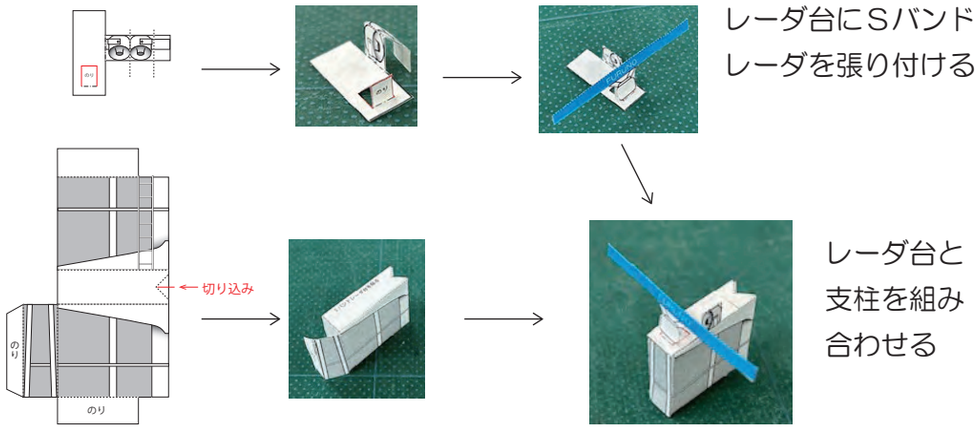



○ Sバンドレーダを組み立てる



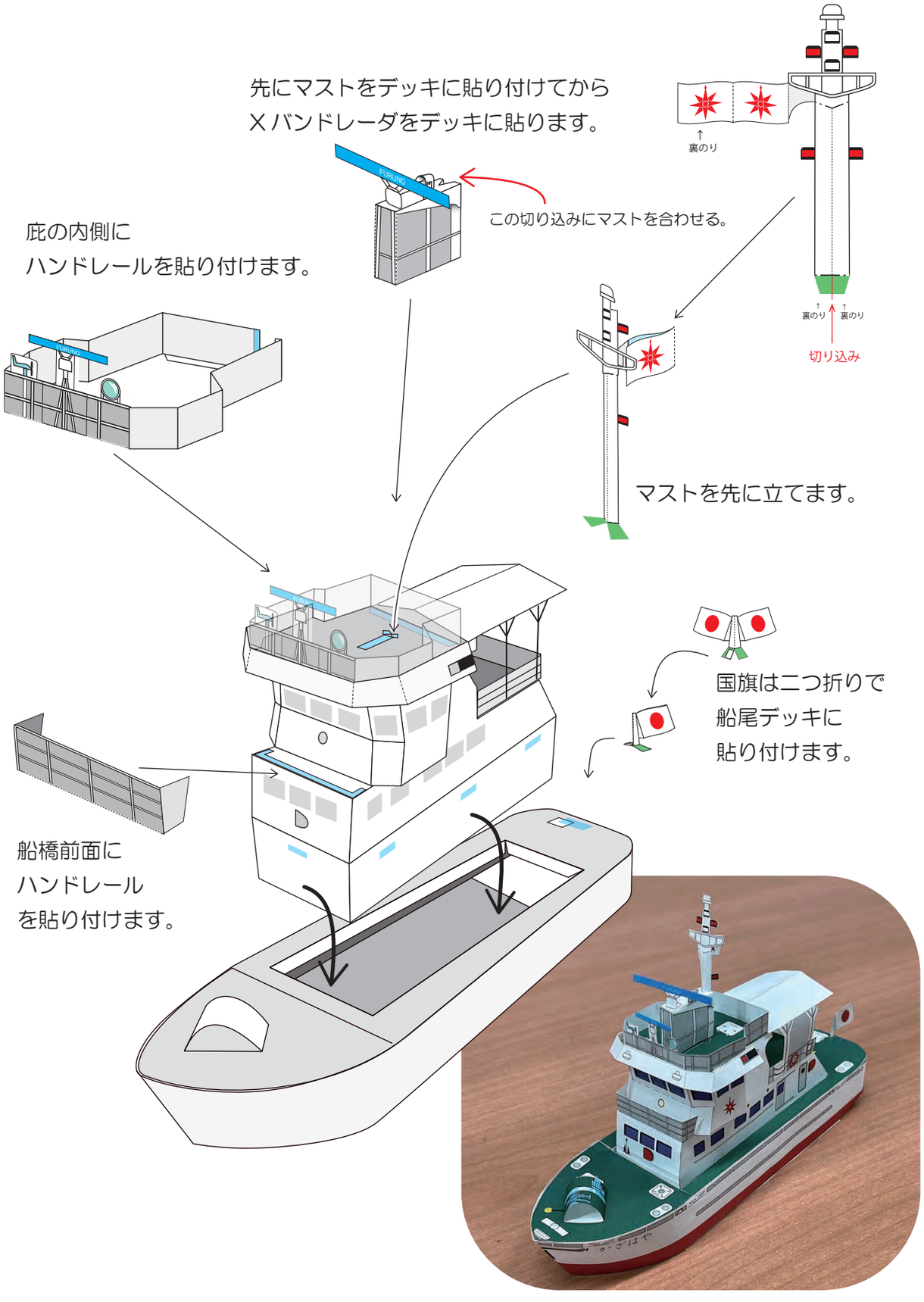

Sバンドレーダを補助線ごと切り取り
二つ折にして上部（青のレーダ部分）を
のりで張りあわせ、その後に余白を切り取る。

レーダ台と支柱を組み立てる




レーダ台にSバンド
レーダを張り付ける

レーダ台と
支柱を組み
合わせる




☆　これで完成です。組み立てお疲れさまでした。☆☆

船　体

国立清水海上技術短期大学校

www.jmets.ac.jp/shimizu/index.html

ホームページ　X

谷折り

山折り

切り込み

国立清水海上技術短期大学校

校内練習船

かざはや

総トン数：56 トン
全長：19.92m
型幅：6.0m
航海速力：10.0 ノット

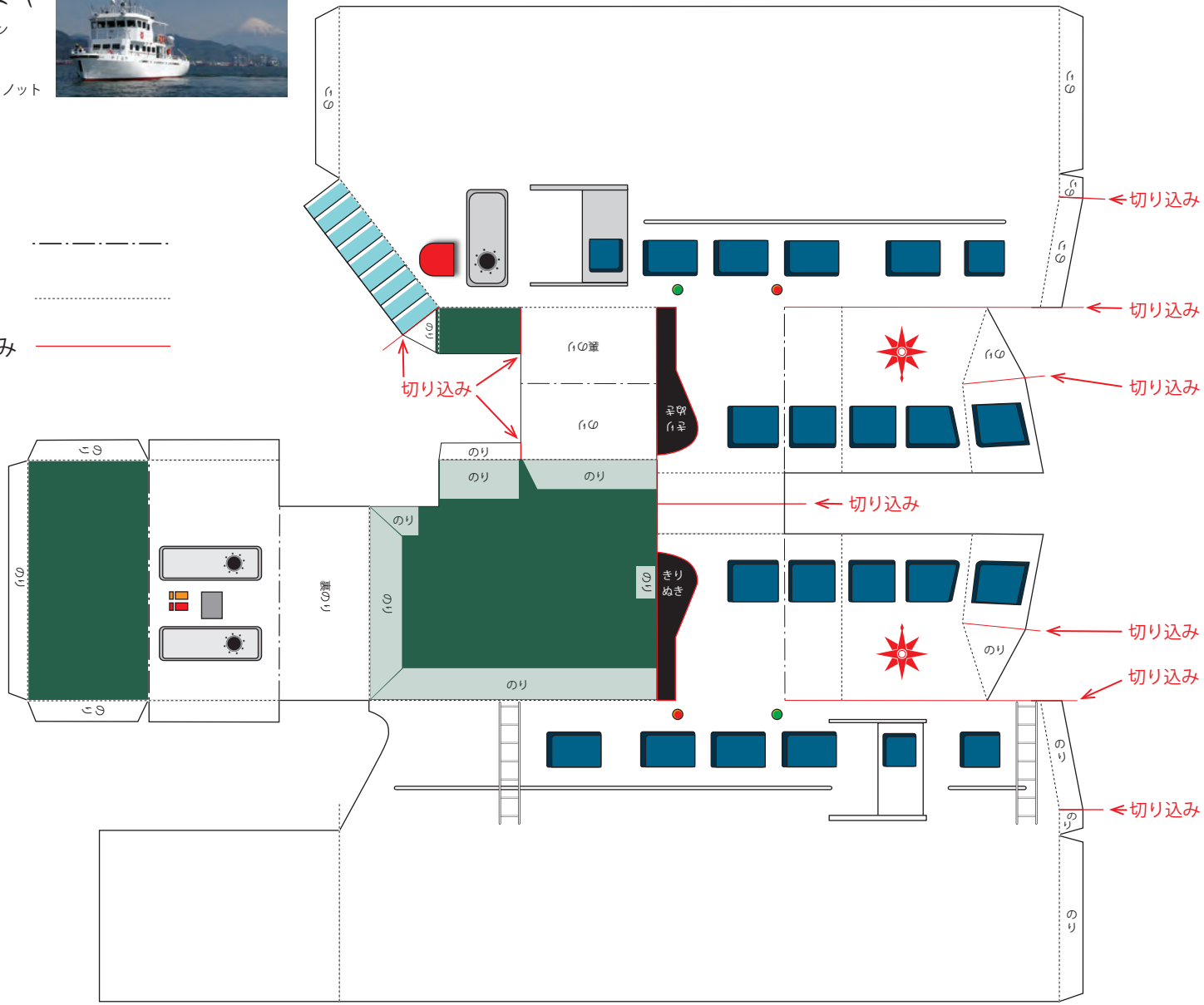
# 国立清水海上技術短期大学校

校内練習船

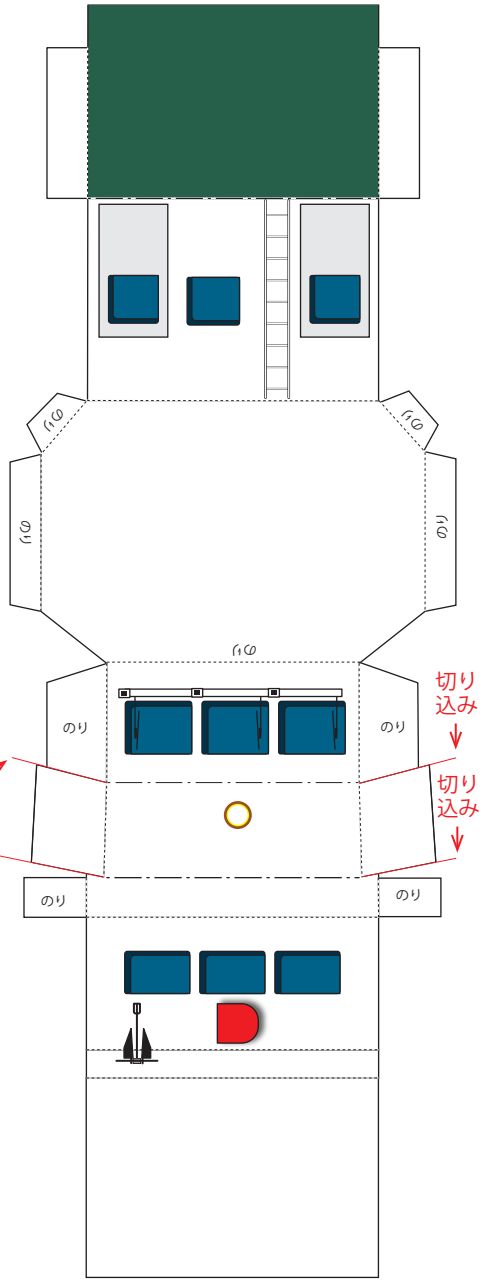
## かざはや

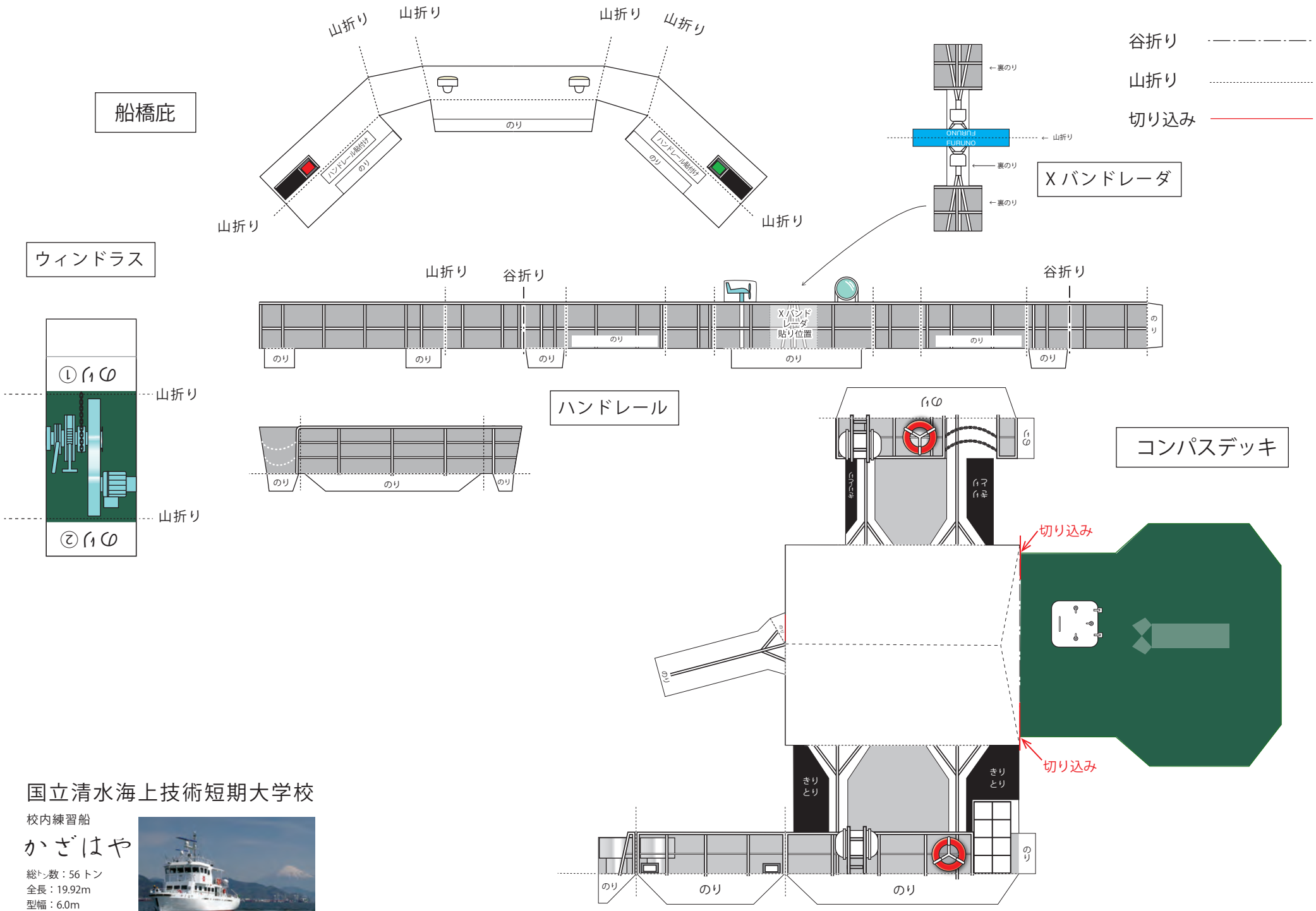
総ﾄﾝ数：56 トン
全長：19.92m
型幅：6.0m
航海速力：10.0 ノット

谷折り
山折り
切り込み




実習室






## 国立清水海上技術短期大学校

校内練習船

かざはや

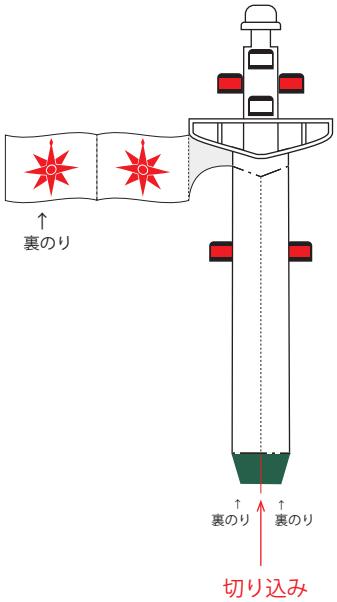
総トン数：56 トン
全長：19.92m
型幅：6.0m
航海速力：10.0 ノット

谷折り

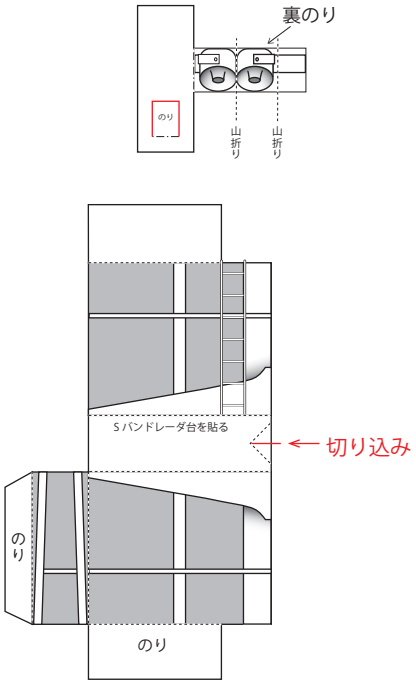
山折り

切り込み

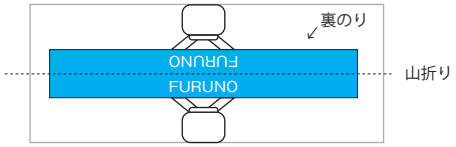
マスト




Sバンドレーダ台

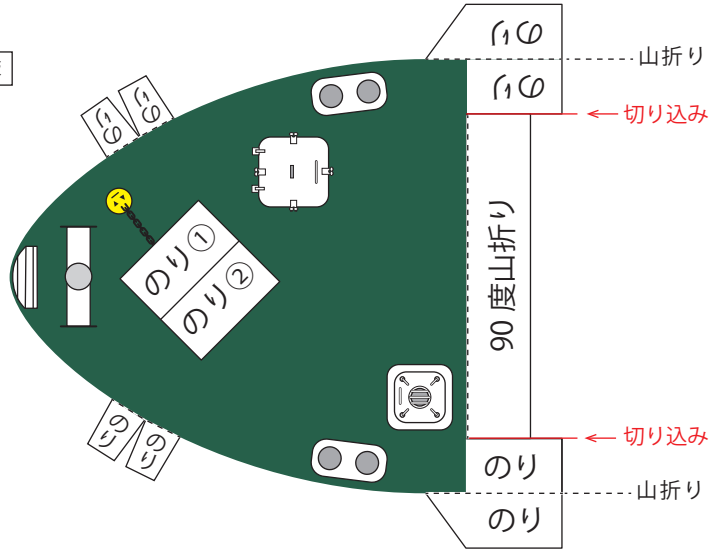



Sバンドレーダ

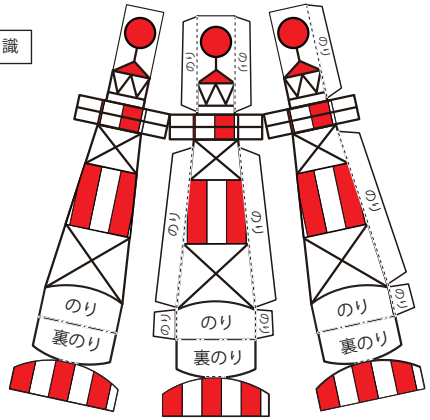



補助線（レーダを折り返すまでは残す）

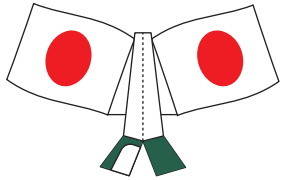
船首甲板




安全水域標識




国　旗



## 国立清水海上技術短期大学校

校内練習船

かざはや

総ﾄﾝ数：56 トン
全長：19.92m
型幅：6.0m
航海速力：10.0 ノット